

子供企画型 レポート

テーマ

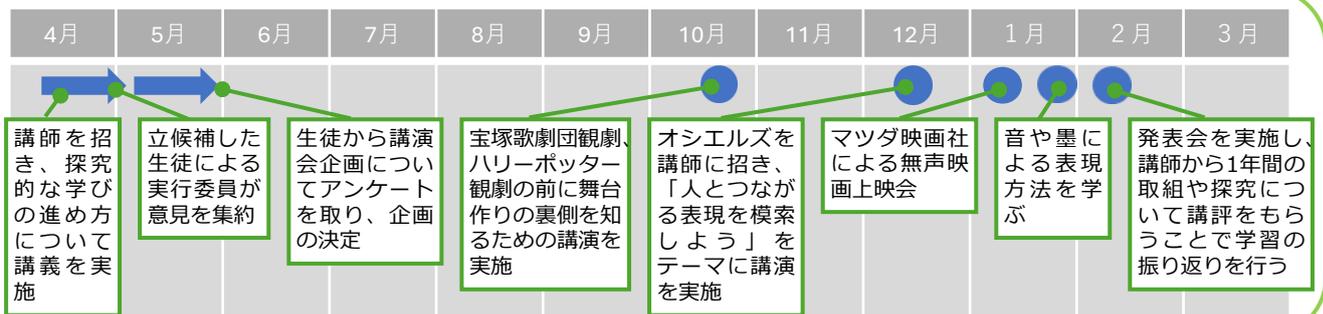
舞台は総合芸術！プロから学ぼう！

都立総合芸術高等学校

教育計画上の
のねらい

- 1 美術・音楽・演劇・ダンスなどの芸術分野を学ぶ生徒が、専門的な技術や表現力を磨き、その力を社会の中で生かし、人とつながりながら豊かに生きていく方法を模索する。
- 2 芸術の学びが「人と人をつなぐ力」「自己表現と共感を生む力」であることを理解し、将来の生き方について考える契機となる講演を企画・実施する。
- 3 多様な価値観や文化的背景をもつ人々と協力・連携しながら、新しい価値の創造に向かって主体的、持続的に取り組むことのできる資質・能力を身につける。

児童・生徒の企画内容
年間スケジュール



児童・生徒の声



企画に関わった
児童・生徒

「みんなが何を知りたいかアンケートをとったことで、クラスメートが興味をもって企画に参加してくれた」・「講演当日の準備が大変な時もあったけど、みんなが講演の後『ためになった』と言ってくれて嬉しかった」

参加した
児童・生徒

「普段何気なく聞き流している音が、組み合わせ次第で物語や感情を物語る『表現』に変わることによって感動した」「華やかな舞台の裏側には、観客を日常から解き放つための緻密な計算があることを知った。プロとして表現することの責任を感じるきっかけになった」

取組・実践



宝塚歌劇団出身者による講演

宝塚歌劇団の舞台づくり

宝塚歌劇鑑賞に先立ち、事前学習の一環として宝塚歌劇団出身者による講演会を実施した。宝塚歌劇団の歴史や舞台制作の背景、演出・表現技法などについて学ぶことで、主体的かつ批評的に作品を鑑賞する力を養うことができた。

(感想)「表現者は井の中の蛙ではダメで、いいものいろんなものを吸収して自分のものにしていくこと、学ぶことってすごく大切なんだと聞いて思いました」



講師との交流

オシエルズと学ぶ

「オシエルズ」を講師に迎え、芸術を通じた社会との関わりについて考える機会を設けた。自らの芸術表現を「社会とのコミュニケーション手段」として捉え直し、芸術を学ぶことが、将来どのように仕事や生活に結びついていくのかを具体的にイメージすることができた。

(感想)「自分勝手な表現と、相手のことを意識した表現の違いについて考えました。」



日用品を用いた音の表現

「音」による多様な表現

日用品を楽器に見立て、生徒が多様な「音」や「リズム」を体感した。後半はプロのピアニスト・パーカッション奏者と共演し、周囲の音に耳を澄ませ、自らの響きを重ね合わせる即興的な表現に挑戦した。他者の音を感じ、対話するように音を紡いだことで、創造性豊かな音楽体験となった。

(感想)「日用品を使ったことで『音』そのものの豊かな可能性に気がきました」

成果

- 本企画を通じて総合芸術高校として専門的に学ぶ芸術の各分野において本物体験をより身近に実施することができた。プロの活躍に触れることで、自分の表現が他者の心を動かし、社会に貢献できる可能性を秘めていることを実感できた。これは職業観の形成に直結する大きな成果であった。
- 生徒が自らの専門技術（美術・音楽・演劇等）をプロのアーティストと共に発表する機会を得たことで、本人たちの自信につながり、より主体的に活動していこうとする姿勢が育まれた。